犬＆猫の飼い方注意情報
歯のケアは健康の秘訣！

みなさんは、愛犬、愛猫の歯について、気にしたことはありますか？

●歯のケア、している？していない？

20人の方（※）にアンケートをとったところ、全員がケアは必要と考えていました。また、実際にケアをしている方は19人でした。

具体的な歯のケア方法

- 歯磨き効果のあるおやつ、ガム等
  （堅すぎる物は良くないとのご意見もありました）
- 歯磨き
- 専用シートで拭く
- 歯磨き専用ペースト
- 病院で歯石除去（スケーリング）

※センターボランティアスタッフ

●歯のケアをしなかったらどうなるの？

個体差はありますが、歯垢がたまると歯周病につながります。口内が腫れたり、歯の根元が腐って抜ける、頬に膿(うみ)がたまる等の症状が現れます。また、歯周病の原因菌が全身に回ると肝臓や腎臓などの臓器にも悪影響があるともいわれています。

●無理なく毎日、少しずつ

▼日々のスキンシップで♪

歯のケアは、できれば毎日行いたいです。ただし、嫌がる犬、猫に急にブラシ等のケアを行うと、動物も飼い主も互いにストレスを感じて、続けることが難しくなります。少しずつ口を触るところからはじめて、慣らしていきましょう。口や歯を触らせてくれたら、褒める、遊ぶなど喜ぶことをしてあげましょう。

▲歯のケア＝楽しい

「歯のケア＝楽しい」となれば、ハードルがグッと下がります。歯垢は歯と歯茎の間にたまりやすいため、ブラシでの歯磨きが効果的ですが、難しいなら最近は色々なケアグッズが販売されているので、相性の良い物を探してみましょう。何よりも続けることが大切です。(A.N)

▲頑張ろうね！

**歯のケアで
大切な愛犬、愛猫の健康を
守りたいですね！**

インタビュー

センターから譲渡されたワンコ
その後、どうしていますか？

家族に迎えて

愛犬アズキさん（本誌27年度秋号に登場）を一昨年12月に亡くした砂山記子さん。昨年の夏に10歳のシーズー犬イゴくん（センター名のオセロを和風に改名！）を家族に迎えました。

今まで多くの犬と暮らしてきた砂山さん。数々の幸せを与えてくれた今は亡き愛犬たちへの恩返しにと、今回は初めてセンターからシニアの保護犬の引取りを決めました。ところがそのイゴくんが家に来て間もなく、人の姿が見えないとほえ続けてしまう『分離不安』になってしまいます。困った砂山さんは思い切ってセンターに相談することに。「職員さんはとても親切で、専属のトレーナーさんも細かくアドバイスをくださいました。保護犬の飼い主にとって譲渡後も相談できる場所があることは心強いです。」今はイゴくんも落ち着いて、一人でお留守番ができる時間も長くなってきました。

▲「先住猫ブルースさんとも仲良し」

▲「ママが大好きなイゴくん」

砂山さんが驚いたのは、譲渡後初めてイゴくんをセンターに連れて来た時のこと。「センターに近づくととても恋しそうに犬舎に走っていったイゴの姿に、センターでどんなにかわいがってもらっていたかわかりました。」

「保護犬は、自分で子犬から育てた犬とはやはり違います。特に問題が起こった時はどうしてもその子の見えない過去を意識してしまいます。それでも飼い主はあるがままのその子を受け入れ、焦らずに自分にできることをしていくことが大切だと気づきました。」

砂山さん、これからもイゴくんをよろしくお願いします。(T.M)

編集後記

我が家には4匹の猫がいます。そのうちの3匹は家の周りにいた元野良猫です。真冬は特に野良猫を見ると胸が痛みます。記事を作りながら改めて色々考えさせられました…終生飼養の大切さ。野良猫という言葉がいつかなくなる日が来ますように。そして殺処分がゼロになりますように。(noe)

本誌は“京都市人と動物が共生できるまちづくり基金”からも出資していただいています。まちづくり基金に寄附していただいた方の御名前はホームページにて公開いたします。なお、寄附の方法についても、こちらのホームページでご覧いただけます。 京都動物愛護センター 検索

センターへのアクセス

- 近鉄十条駅から徒歩５分
- 京都市営地下鉄烏丸線
  十条駅から徒歩15分
- 京都市営バス
  十条大宮停留所から徒歩5分

※無料駐車場はございません

〒601-8103
京都市南区上鳥羽仏現寺町11番地
電話：075-671-0336
FAX：075-671-0338

開所時間：午前9時〜午後5時
休所日：木曜日（祝日の場合は翌金曜日）、年末年始

京都動物愛護センターマスコットキャラクターのLINEスタンプはこちらから
↓↓

発行：京都動物愛護センター
平成29年2月1日

動物愛ランド・京都 機関紙

愛ランド通信

～人と動物の共生を目指して～

平成28年度冬号

最近は猫ブームといわれ、犬の飼育頭数を上回る勢いだとか。けれどもなかなかそう簡単に飼えるものではありません。
「こんなはずじゃなかった！」「思ってたのと違った！」
などとがっかりしないように、予備知識をしっかりつけて、猫も人間もハッピーな毎日を過ごせるようにしましょう。

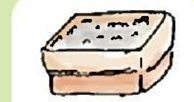
教えて！
猫を飼う前の予備知識

Q、猫を飼い始める時に必要なものや、あるといいものって何ですか？

A、猫は完全室内飼育が原則です。屋内で、猫の欲求を満たし、安全な管理をするため、次のものを用意することをおすすめしています。

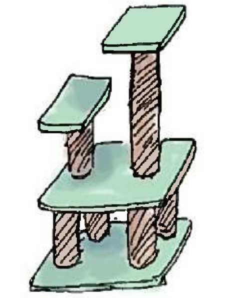
餌の容器

水の容器


トイレ

爪研ぎ器

おもちゃ


キャットタワー

ケージ
留守番の時、物を壊してしまうなどのいたずらや誤食などの事故を防ぐことができます。猫の逃げ場にも。

キャリーケース
動物病院に行く時や災害時に必要

猫用のグッズが色々販売されているので、ネットで検索したり、動物病院等に置いてある通販カタログで選ぶのも猫を飼う楽しみの一つですね！

猫と暮らすに当たって大事なこと

Q、完全室内飼いでも避妊去勢やワクチンは必要ですか？

A、完全室内飼いでも、万が一脱走してしまったときのことも考え、避妊去勢手術をしておく方がいいでしょう。手術は生後半年頃から受けることができます。

ただメリットとデメリットがあります。

・メリット…オスは縄張り争いなど本能からくる攻撃性や発情期のマーキングが弱くなることがあり、また、性格が穏やかになります。メスでは望まない妊娠を防いだり、発情行動がなくなります。オスメスに共通するのは、生殖に関連する特有の病気を予防できることと発情期のストレスを軽減できることです。

・デメリット…子供を授かることができなくなります。また、全身麻酔のリスクもあります。そして肥満になりやすくなるといわれています。

ワクチンは生後2カ月頃から受けることができます。完全室内飼いでも人間が屋外から持ってきた病原体に感染する可能性もあるので、ワクチンは接種した方がいいでしょう。

ただワクチンにもデメリットがあります。下痢や嘔吐、食欲不振などの副作用や、まれに呼吸困難、じんましんなどのワクチンに対するアレルギー反応が見られることもあります。ワクチン接種後は安静にして、しばらく様子をみてあげましょう。お家に猫を迎えたら、健康診断を兼ねてワクチン接種に行き、掛付けの獣医さんを決めておくのもいいですね。何かあったとき、相談相手がいると心強く、安心ですよ。

Q、完全室内飼育で気をつけることはありますか？

A、運動不足になりがちなので、キャットタワーなど猫の遊べるものがあるといいと思います。外を見るのが好きな子なら外が見える場所にあるといいですね！

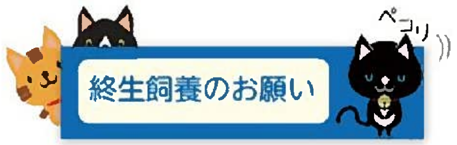
脱走を防止することも大切です。外に出ると、ケンカをしたり病気になったり、ノミやダニを持って帰ることもありますし、最悪の場合、交通事故に遭ってしまうことも。猫の中には、隙あらば脱走してやろうと思う猫もいます（我が家の猫です（笑））。脱走防止柵も販売されていますので、是非活用して下さい。

また、猫にとって爪研ぎは古い爪をはがしたり、ストレス解消にもなる大事な行動です。我が家の猫も寝起きにはまず背伸びをし、爪研ぎをしています。ソファーや壁などお気に入りの場所で爪研ぎをするので、床置きタイプやポールタイプ、コーナータイプなど色々な爪研ぎ器を試してみては？しかし、猫によって好きな素材があり、カーペットや段ボール、木など様々。傷つけられたくないものはしっかりガードしましょう。

猫は泌尿器系の病気が多い動物です。しかも綺麗好きなのでトイレはとても大切。トイレの数は飼育頭数プラス1個が望ましいとされていますが、場所に余裕がない場合は、いつも清潔に保ってあげて下さい。

また、夏場は熱中症に注意してください！お留守番の時はエアコンを入れるか、風通しを良くしたり別の部屋へ移動できるようにしてあげましょう。エアコンが効き過ぎたときに自分で体温調節できるようにタオルや猫ベッドを置いてあげてもいいかもしれません。

童謡にも「♪猫はこたつで丸くなる♪」とあるように、猫はこたつが大好きです。でも、これも注意が必要です！低温火傷をしてしまうことがありますので、こまめにこたつの電源を切るなど注意してあげて下さいね。



終生飼養のお願い

猫との生活は毎日がとても楽しく、癒されるものですが、良いことばかりではないのも事実です。

病気になれば病院に連れて行かなければいけません。予想外の費用がかかることもあるでしょう。飼ったからには、その命が終わる日まで責任を持たなければなりません。それなりの覚悟と経済力が必要です。かわいいからというだけで安易に飼わないようにお願いします。

平成27年度に京都府と京都市に収容された猫の頭数は約1600頭です。そのうち譲渡された頭数は約200頭に過ぎず、一方、殺処分された（病死は除く。）頭数は約1100頭です。

飼い主が手放した理由の中には、世話できる以上に多くの子猫が生まれた、引っ越した先がペット不可だった、子供や家族が猫アレルギーだった、飼ってみたら思っていたのと違った…など、人間の勝手な都合によるものもあります。猫には何の問題もありません。そんな悲しいことにならないように、飼う前に、最期まで面倒を見られるか、どうかもう一度よく考えて下さい。万が一、飼えなくなった時の後見人を決めておくのもいいと思います。

最後は重たい話になってしまいましたが…猫との生活って本当にとっても楽しいのです！皆さんも是非とも猫とハッピーライフを！！（noe）

マンスリーイベント

センターでこんなことやってます！

センターでは「犬のしつけ方教室」を毎年開催しています

京都動物愛護センターでは、犬のしつけ方や接し方に関する基本的な知識を持っていただき、『人と動物が共生するうるおいある豊かな社会を目指す』ことを目的として、京都府、京都市にお住いの方を対象に、毎年、犬のしつけ方教室を開催しています。今年度は11月12日に、「犬のしつけ方教室　はじめの一歩講習会」と題して、JAHA認定家庭犬しつけインストラクターの2名の先生をお招きして、開催されました。前半の1時間では、講義を中心に、犬と人との関わり方を学びました。その中でも特に「各家庭でのルールを決めておこう」が強く印象に残りました。もしあなたのご家庭で、人間の食事中に、犬が「ちょうだい！」とおねだりした場合、「絶対あげてはダメ」と与えない人と、「ちょっとだけなら」と与えてしまう人がいたら、犬は、どうなりますか？家族全員が守ることができるように、ルールを決めることが大切なのだと思いました。後半の1時間は、インストラクターさんとパートナー犬のデモンストレーションでした。実際のしつけの仕方や、コツを学びました。「おいで」という言葉を教えることで、犬を危険な状況から救えること。ハウス（クレート）で犬が過ごせるように慣らすことは、来客時に対応できるだけでなく、災害時に犬と一緒に避難する時にも必要だということ。こうしたことに、改めて気付かされました。目の前でインストラクターさんに訓練の方法を見せていただけたので、これには、参加者の皆さんも、身を乗り出してメモをとっておられました。

愛犬がいうことを聞かないなど、飼い主として困ってしまう場面はありませんか。犬が人間社会の中で他人に迷惑を掛けずに生活していくには、しつけは不可欠です。専門家の話を聞いてみたいなと思っている方、センターの「犬のしつけ方教室」にぜひご参加ください。（A.S）

▲ハウスに入りますっ！

▲「おいで」って聞こえたよ。

ボランティアスタッフ チーム活動紹介

ボランティア機関誌編集チーム

ボランティアは、シフトによって、来館者の対応をする「案内活動」と収容されている犬猫の世話をする「管理活動」をしています。それ以外に、希望によって参加するチーム活動を四つ設定しています。それぞれのチームで月1回程度の定例会を持ちながら、職員と一緒に活動を行っています。

チーム活動奮闘中

機関紙編集チーム紹介

このコーナーもいよいよ最後になりました。

今回は、この機関紙を企画・編集している、我らが機関紙編集チームの紹介です。

◇皆さんと行政の掛け橋として

機関紙は、現在、年4回発行しており、特集、センター紹介、ボランティア活動紹介、犬・猫の飼い方注意情報、家族に迎えて（譲渡後の情報）、4コママンガで構成されています。今後、新しいコーナーも予定していますので、楽しみにしてくださいね！

記事を書く際には、飼い主さんや獣医さんへのインタビューやイベントでの取材、記事の基になるデータの収集などの準備もしっかり行っています。

行政的な視点だけでなく、府民・市民の視点から動物愛護に関する情報を提供するため、責任感を持って記事を書いています。

◇機関紙編集チームの目標

機関紙を定期的に発行することは大変ですが、私たちには目標があります。

動物愛護の精神が根付き日本から不幸な動物がいなくなる、～人と動物の共生を目指して～が私たちの願いです。

これからも機関紙の発行を続けて、皆さんに愛され親しまれる存在であり続けたいと思っています。（S.W）

▲取材中の機関紙メンバー